

光通信部品などを製造するNTT-ATクリエイティブ（松茂町）でも検出できるのが特長。2月には県立工業技術センターの協力を得て試作器を完成させており、2016年12月ごろの発売を目指す。

ノロウイルス 微量で検出

試作器を開発

NTT-ATクリエイティブ（松茂町）

開発中の簡易検出器は、ノロウイルスが特定の抗体と結び付いた後、試薬を滴下すると発光する性質を利用。微弱な光を感じできる高感度センサーでウイルスを検出する仕組みとなっている。

試作器は、量産化しやすいよう手のひらサイズにし、抗体を塗り込んだ検査シートと、高感度センサーを内蔵した光の検出器がセットになっている。

現在市販されている簡易検出器は、ウイルスが10万〜1千万個ないと表れないことから、検体にはウイルスが増殖した便や吐物が必要。新たな

早期特定に有効

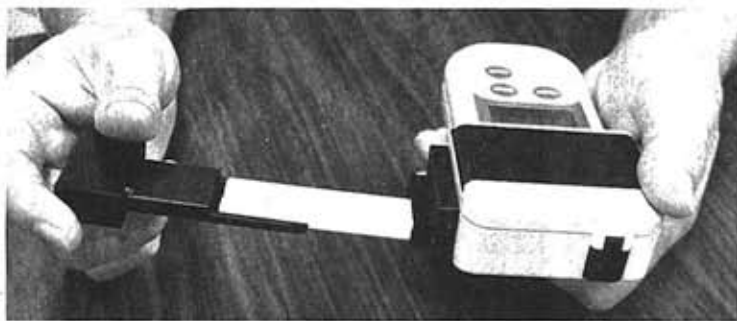
検出器は10個程度で検出可能で、衣類やドアノブをこすった綿棒に試薬を加えて作った検体からでも確認することができる。ウイルスの付着した場所を早期に特定して消毒することで、二次感染の防止が期待される。

業務用として、病院や介護施設、清掃事業者向けの販売を想定している。市販に向け、15年度は試作器の性能評価を行う。

NTT-ATクリエイティブの満永豊社長は「検出器の開発を実現するとともに、これをきっかけにして高感度センサーをウイルス以外の分野

にも活用できるように、可能性を探っていきたい」と話している。

（久保高茂）



ノロウイルス検出器の試作器
|| 松茂町のNTT-ATクリエイティブ